

こあじ冊子

koajisashi

2025.2.1 発行

NPO法人

リトルターン・プロジェクト通信

特集 コアジサシの行方!!

◆このプロジェクトは東京都下水道局と大田区の協力を得ています。

「寂しげで、寒そうで、どこでみんなとはぐれたのか、ただひとり夜を飛んでいます。出来れば老いてこうはなりたくないものだけど、老いの孤独は致し方ないかもね。それより、この鳥の明日が明るいことをいのりましょう。きっと大田区に帰ってきますよ」

Contents

- ◇ 2024年度 営巣調査結果報告 奴賀俊光 1
- ◇ 特集 「コアジサシの行方!!」 早川雅晴・松村雅行 2・3
- ◇ ・2024年度コアジサシ講演会報告・2025年営巣地整備のお知らせ 4

2024年度 営巣調査結果 調査研究部会 奴賀俊光

2024年度の森ヶ崎のコアジサシ営巣調査の結果としては、成鳥最大数 20 羽(2023 年は 24 羽)、総営巣数 30 巣(2023 年は 12 巣)、ふ化数 0 羽となり、2 年連続のヒナ 0 羽となりました(図 1)。4 月から少数でなんとか頑張っていたコアジサシですが、やはり多数で集団営巣しないと、卵を産んでも天敵(特にカラス類)から卵を守れず、捕食されてしまいました(毎週の営巣調査の詳細は LTP ブログをご覧ください)。

これまでの総営巣数、推定ふ化数の経年変化を図 2 に示します。森ヶ崎でうまくいなくても、他の場所で繁殖成功していれば良いのですが、今年は、東京湾内で繁殖がうまくいったという話は、私たちは聞いていません。もしかしたら、視察で訪れた中央防波堤で営巣していたかもしれませんが、それでも数は数十羽程度と思われる。全体的に個体数が少なくなっている感じがします。

コアジサシの結果は残念でしたが、シロチドリ、コチドリはヒナを確認しました。確認できた範囲では、シロチドリは総営巣数 4 巣、ふ化数 2 羽、コチドリは総営巣数 11 巣、ふ化数 5 羽という結果でした。

今年度も営巣調査ボランティアの募集を行い、5/12 から 7/27 まで 12 回の営巣調査を実施し、LTP スタッフ含め延べ 185 名の方にご参加いただきました。コアジサシが少ない、抱卵している姿が見えない、ヒナが生まれぬ猛暑の中、ご協力ありがとうございました。

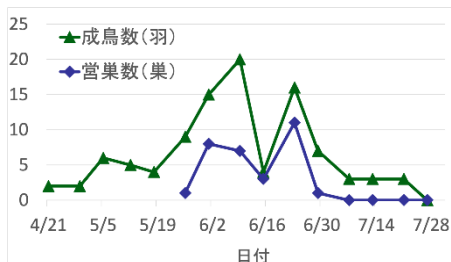


図 1

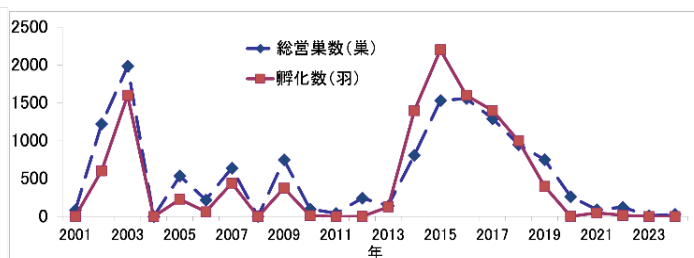


図 2



7/18 コチドリ雛 撮影 鈴木郁



特集 コアジサシの行方!!



国内におけるコアジサシの最大営巣地の状況

関東地方では年々コアジサシの飛来数・営巣数共に減少しているように感じています。特に 2020 年頃からその傾向が強くなり、100 巣を越えるコロニーは稀にしかありません。コロニーが小さいため繁殖成功率が低く、巣立った雛の数も僅かです。今年(2024 年)は愛知県でも繁殖が認められず、東日本全体の個体群の存在が危ぶまれています。一方で、西日本の大阪と沖縄では大きなコロニーが形成され続けていて、繁殖成功率も一定水準以上を保っていると思われます。大阪・沖縄の個体群と関東の個体群の関係は明らかではありませんが、日本全体のコアジサシの保護について考える際にとっても重要な場所ですので、その概況を報告します。

大阪湾の営巣地

大阪湾では 2000 年以前より幾つもの巨大な埋立プロジェクト(南港・関西国際空港・神戸空港 etc.)が続いており、造成の過程で生じる広大な裸地を転々としながら多くのコアジサシが繁殖していました。近年(2021年)までは万国博覧会の会場整備が進められている夢洲の人工島に 2000 羽以上のコアジサシが飛来し、営巣をしていました。2022 年からは工事の本格化に伴い、夢洲での営巣はできなくなりましたが、より沖合に造成中の広大(205ha)な大阪沖埋立処分場(新島)で営巣しています(図1・2)。2023 年の調査では 1400 羽、2024 年は 1450 羽のコアジサシが営巣しています(図 3)。新島ではコアジサシの他にベニアジサシも 500 羽程度繁殖しています。(図 4)。



図 1. 大阪沖埋立処分場(新島・205ha)の位置

陸地から離れているために、哺乳類の捕食者はおらず、対岸からハヤブサ・チョウゲンボウが飛来するくらいです。新島は大阪市の新しいゴミの集積場としてあと 20 年以上は使い続けられる計画で、この間は基本的に環境は維持され、コアジサシの営巣地が提供し続けられると思われま



図 2. 大阪沖埋立処分場(新島)の様子。水面は島の中の窪地に溜まった水で、海ではない。



図 3. プラスチックごみを利用したコアジサシの巣。



図 4. コアジサシとベニアジサシが飛びかう大阪沖埋立処分場(新島)の風景。

沖縄の営巣地

沖縄の巨大繁殖地は、沖縄市泡瀬の中城湾に造成中の人工島(187ha)です(図 5・6)。商業施設等が建設される予定となっていますが、詳細は決まっていません。私が調査に訪れるようになってから 10 年以上経っていますが、この間常に造成工事が行われ続けていて営巣可能な裸地が提供され続けています。正確な営巣数調査は行っていませんが、少ない年でも 400 巣以上、多い年では 1000 巣以上あります。2023 年には約 50 羽のツバメチドリも営巣していました。



図 5. 沖縄市泡瀬の中城湾に造成中の人工島(187ha)の位置。



図 6. 沖縄市泡瀬の人工島の様子。

ネズミの侵入により全ての卵が捕食された年もありますが、営巣は毎年継続されています。土砂の搬入がまだ続いている状況ですので、まだ 10 年以上は営巣地が提供され続けると考えられます。

九十九里浜や鹿島灘等の自然海岸での営巣が激減している中、森ヶ崎をはじめとする大阪・沖縄の埋立地のような人工の広大な裸地の存在は、コアジサシ等の地上営巣性鳥類にとって益々重要になってくると思われま

す。(注：現在、大阪の新島・沖縄泡瀬の人工島は共に常に工事中であるため、安全確保の観点から、一般の方の立入・見学は許可されていません。)

(注) は、大阪市から情報開示に際しての条件として加えさせてもらいました。 早川雅晴



鳥学会 2024 自由集会「コアジサシ国勢調査」報告

今年の東京大学鳥学会で自由集会「コアジサシ国勢調査」を北村亘さん、奴賀俊光さんと共同主催しました。

東京湾のコアジサシと言えば、夏の風物詩とも言える三番瀬の渡り前集結がありました。1970 年代頃には 10 万羽のコアジサシが盤洲干潟に集結していたと言われています。2000 年代には三番瀬に集結場所を替え、2015 年に約 3,000 羽を目撃しました。

東京湾内の観察個体数は減少傾向にあり、2023 年は三番瀬でコアジサシ集結は観察されず、2024 年も少数が目撃されたのみでした。ところが 2023 年に海ほたるで 1,000 羽、2024 年にも 8 月 11 日に 1,200 羽、9 月 6 日に 300 羽の観察情報を得ました。

X(旧ツイッター)で「#コアジサシ国勢調査」をつけ投稿し情報を集めてみました。その結果 2024 年 3 月 29 日東与賀干潟、4 月 5 日三番瀬 30 羽、4 月 16 日検見川浜 12 羽、4 月 21 日森ヶ崎屋上 2 羽などの初認情報を得ることができました。

コアジサシは寿命が長いので、個体数が維持されているようにみえますが、巣立ち幼鳥数が少なく、繁殖個体の寿命がつかれば急激に個体数を減らす危険性が予想されます。コアジサシの全国の個体数は、2014 年頃には 5,000~10,000 羽と推定されていました。

今年、何羽のコアジサシが飛来し、何羽の幼鳥が巣立ったのかを知りたいと思い自由集会を開催しました。

千葉の箕輪義隆さん、茨城の飯田直己さん、埼玉の小林みどりさん、愛知の新實豊さん、岡山の西井弥生さん、佐賀の宮原明幸さん、福岡の服部卓朗さんに発表していただきました。バードリサーチのメーリングリストなどや、野鳥の会各県支部や個人からもデータをお寄せいただき全国的なデータをまとめることが出来ました。

地元のコアジサシの状況を発表していただき、森ヶ崎屋上 20 羽、検見川の浜 62 羽、九十九里浜 330 羽、巣立ち 10 羽、埼玉県 60 羽、巣立ち 20 羽、茨城県 450 羽、巣立ち 25 羽、愛知県 200 羽、岡山県 160 羽、巣立ち 45 羽、佐賀県 80 羽、巣立ち 47 羽、博多湾 22 羽、合計 1,384 羽、巣立ち幼鳥数 147 羽。地域ごとの最大個体数は東北地方 4 羽、関東地方 319 羽、中部地方 500 羽、近畿地方 2,400 羽、中国地方 160 羽、四国地方 100 羽、九州・沖縄地方 100 羽でした。全国 13 か所の飛来総数は 3,634 羽、巣立ち幼鳥数は 105 羽でした。2024 年の日本へのコアジサシ飛来数は 5,018 羽、巣立ち幼鳥数 252 羽と推定されました。

コアジサシが指定される絶滅危惧 II 類から、I B 類へのランク見直しの必要要件は、過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったものとされています。コアジサシは減少原因が解決されておらず、長い期間を通じて減少が進むと予想され、レッドリストのカテゴリーの見直しも考えられます。本集会後にも他県からのデータを得て、今年の全国での飛来総数は成鳥 5,500 羽、巣立ち幼鳥 260 羽と推定しました。日本に飛来したコアジサシの総数が推定でき、保護活動がより重要で新たな繁殖地を造り出さない限り未来はないと感じました。

環境省のレッドリストカテゴリーが上がれば認知度も上がり、保護活動がさらに盛り上がるのではないかと期待しているところです。

松村雅行



2024年度 LTP講演会報告



受付風景

講演する樋口広芳氏

岩本久則氏 表紙画展の様子

2024年12月7日、NPO法人リトルターン・プロジェクト主催「コアシサシ講演会」が開催されました。大田区や東京都下水道局他たくさんのご支援のもと、過去最高の160名の参加者があり、盛況のうちに終わることができました。樋口広芳先生のご講演は、GPSなどで解明されつつある、鳥の渡りの謎を解き明かしつつ、さらに解明すべき謎につきあたる、というなんともミステリアスな内容で、とても興味深いものでした。また、岩本久則さんのLTP会報、「こあじ冊子 表紙画展」も併設開催され、独特な画風と色彩の美しさに、多くの参加者が魅了されました。

2025年 営巣地整備作業のボランティアを募集します

◎日程 2025年3月22日(土) 23日(日) 9:30～16:00

※午前または午後の半日みの参加も可能です。

◎対象 小学校5年生以上(中学生未満は親御さんの同伴が必要です)

※保険手続きの関係上、事前申込をお願いいたします。

※各日/申込順60名まで。

◎作業場所 東京都下水道局森ヶ崎水再生センター、東施設屋上コアシサシ営巣地 大田区昭和島 2-5-1

※車でのご来場はご遠慮下さい。近隣に駐車場ありますが自己責任でお願い致します。自転車でお越しの場合は事前にご連絡下さい。

◎集合場所 東京モノレール 昭和島駅 東口 (集合場所は一か所だけです)

◎作業内容 草むしり作業・終了後、通路の貝殻戻し作業など・通路、排水口周りなどの清掃。

※悪天候中止などの連絡は、前日 20:00 までに当ブログに「中止/実施」の掲示をいたします。(携帯からも見られます)

LTP ブログ:<http://d.hatena.ne.jp/littletern/>

※作業当日の緊急連絡先は参加申込者に事前にお知らせいたします。

<申込み/問合せ>

「氏名」「住所」「電話番号」「作業希望日・全日/午前のみ/午後のみ」「リトルターン・プロジェクトのブログを見ることができるか、できないか」を明記の上、3月15日(土)までにお申し込みください。

*グループでご参加の場合には、参加者全員の必要事項をご記入ください。

◎申込先(携帯メールもOK)・・・メールの宛先:apply@littletern.net

※apply@littletern.netからのメールを受け取れるよう設定の変更をお願いいたします。

◎営巣地整備作業に関するお問い合わせは・・・メールでの問合せ先:info@littletern.net

LTPホームページ:<http://www.littletern.net/>の「お問い合わせ」からも可能です。



保護整備部会 橋本直喜

会員になって一緒にコアシサシを守りましょう!

NPO法人リトルターン・プロジェクトでは、随時会員を募集しています。わたしたちと一緒に絶滅の恐れのある野鳥“コアシサシ”を守りませんか?

◇入会届のダウンロード先◇

<https://littletern.net>のメニューから入会案内へ

◇入会届の送付先◇

〒143-0015 大田区大森西 5-10-22 増田方

NPO法人リトルターン・プロジェクト宛

または、E-mail: info@littletern.net

へご連絡ください。



ブログは
こちらから

◇発行:NPO法人リトルターン・プロジェクト

◇編集 増田 直也

◇表紙画・イラスト 岩本 久則

☆問い合わせ先

E-mail: info@littletern.net

NPO 法人リトルターン・プロジェクト

Website-URL <https://littletern.net>

ブログ更新中 <https://littletern.hatenablog.com/>



HPはこちらから